

生きる意味を見いだしながら、前向きに

児童施設 施設長 岡野美智子

毎日暑い日が続きます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。平成30年度が始まり早いもので4か月となりました。4分の1を経過した現在、計画通りに進んでいないこともあります。早くに児童発達支援事業を開始したいのですが、人材の確保が急務とされています。

今年も例年通り夏休みが始まりました。体力の有り余っている児童は、大きな声を出し、走り回っています。今回のつくほうだよりでは先日行った夏の行事の様子をお伝えします。児童40名、児童施設・給食・相談事業所等の職員21名が、3班集体に分かれ、夏の日光を目指して出かけてきました。作業を中心に行っている学卒者の7名は、「大人旅」と称して、バス、電車(つくばエクスプレス)、特急電車「リバティけごん」を乗り継ぎ、

東武日光駅で下車。かの有名な金谷ホテルで名物のカレーを食べ、世界遺産東照宮を拝観してきました。左甚五郎作の眠り猫をくぐり、「一人の一生は重荷を負うて行くがごとし、急ぐべからず」という徳川家康の遺訓で有名な石碑のある220段の階段を登り、廟にも行ってきました。それから明治の館でティータイム。それぞれ選んだケーキと飲み物で満喫したグルメな大人旅でした。公共交通機関やちよつと敷居が高いかなと思えるホテル、レストランでも問題なく行動できた7人の好青年たちでした。

2つ目の班は、標高2486メートルの男体山登山に挑戦しました。小学生2名、中学生3名、高校生5名、職員5名、はじめての高い山、さぞかし大変だったと思います。8時間弱、全員が自分と戦い登りきる事が出来ました。がんばった彼らに大拍手です。3つ目の班は「バスde川遊び」と称して、「まなかの森」というキャンプ場での川遊びを楽しみました。8、9ページの写真でございました。8、9ページの写真でございました。8、9ページの写真でございました。8、9ページの写真でございました。8、9ページの写真でございました。

とされていること、要求などを取り入れながらの行事でした。この体験が個人の良い思い出、成長につながっていくものと思います。

私事で申し訳ないのですが、今年の初めに実姉が亡くなりました。姉とは8歳も離れており、私の生きる指針の一つでありました。病気で意志が十分に伝えられなくなった彼女に「生きていてほしい、前のように元気になつてほしい」と思っていました。しかし、私の思いとは別に意思の表出もせず、ひっそりと逝ってしまいました。災害や事故など思ってもいないことで命をなくすことがあります。無宗教の私ですが、身近な人の命だけでなく、ご冥福を祈ることが深くなってきました。生きることを意味を問い、生きづらさに自殺をする人も多い時代です。私はこの仕事をしていて、生きることの意味はあらかじめ与えられるものではなく、その都度発見されるべきもの、状況に直面した者が自ら見いだされなければならぬものだというヴィクトール・フランクル(ウィーンで生まれたユダヤ人精神科

医で強制収容所の体験をつづった著書『夜と霧』で知られる。)の言葉に強くひかれています。

保護者の皆様が障害を受け止め、前向きにお子さんを養育しようと、私どもの施設と力を合わせて下さる姿に感謝するとともに、私の生きる意味を感じております。暑い夏が過ぎれば、9月15日には筑峯学園運動会を予定しています。「I CAN, WE CAN, はばたけ筑峯っ子」のスローガンのもと、練習に取り組んでいます。ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

まだまだ暑い日が続きます。皆様、お身体ご自愛くださいますように。



登山は自分との戦い(日光男体山にて)

猛暑の夏、未来の夏

障害者支援センター未来センター長 松島寿樹

7月は記録的な猛暑になりました。気象庁は異常気象との見解を発表したようです。西日本では記録的な豪雨により、甚大な被害がありました。被害者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。私が幼少期、親が小さかった頃はもつと涼しかったというようなことを耳にしましたが、今まさに私が幼少期よりもまた暑い日が増え、我が子に同じようなことを口にしていきます。海外でも異常気象が見られていますし、地球規模で行動を起こさなくてはいけない時期に来ているのかもしれない。

障害者支援センター未来も農作業中心の活動を行っているため、この異常な高温では活動内容の変更を余儀なくされています。田畑での農作物の管理も大切ですが、利用者、職員の体調管理を最優先に考えての活動と

なり、午前中の早いうちに田畑の管理や収穫を終え、午後は屋内で活動しています。ここ数年はお盆明けに秋の訪れを感じる涼しさが続いています。今年はどうでしょうか？もうしばらく、体調に気を付けながら、活動していきたいと思えます。

7月11日(水)〜13日(金)には群馬県みなかみ町方面に夏季旅行に行つてまいりました。最近は人数の関係で二班に分かれての夏季旅行となっています。第一班の今年のメインは「水遊び」ということで1日目には何度か利用させていただいているかっぱクラブでラフティングをしました。何度かラフティングをしたことがある人も初めても人も、ドキドキしながら、ラフティングを楽しめました。2日目には谷川岳登山を行いました。谷川岳も何度か登っている山ですが、今年

は雨に降られて予定の行程を変更した班もありました。雨に降られるのも自然の中での活動のいい経験となりました。普段生活している家庭やグループホームを離れてキャンプ場で寝食を共にし、わくわくドキドキしながらの3日間となりました。今年もボランティアで参加していただいた方をはじめ、様々な方にご協力をいただき誠にありがとうございました。9月にはつくほう米の稲刈りが始まります。昨年は春先の水不足で大打撃を受けましたが、今年は春先に定期的に雨が降ったことや、使える井戸を増やしたことで、現在のところ順調に生育しています。あとはイノシシに荒らされないことだけが心配ですが、9月の中旬頃には新米の販売が開始できるかと思えますのでよろしくお願いたします。

利用者の生活がより豊かになるように

グループホームほっとハウス 施設長 岡野真唯

梅雨があつという間に終わり、暑い夏が早く来てしまいました。ほっとハウス作谷では、エアコンの不具合がいくつもあり、交換するまでは、暑い夏を扇風機と涼しい部屋に避難するという方法で乗り切っています。築10年、あちこち修理の必要性が出てきています。

ほっとハウスでは、6月7月に少人数に分かれて買い物に出かけてきました。4〜5人という班だったので、個人の希望を聞きやすく、いつもと違うところでご飯を食べようか？などと職員も工夫しながら過ごしてきました。私も一班だけ参加してきました。ファミリーレストラン・ココスで大盛りのポテトを注文し、利用者・職員が一皿を共有するという、なかなか普段の生活ではできない体験をし、新たな一面を発見しました。

7月には、未来の1回目の夏季旅行に利用者、職員が参加しました。群馬県みなかみ町の宝台樹キャンプ場やラフティングを行うかっぱクラブさんには何度もお世話になっています。慣れた様子で挨拶する利用者の姿に、なじみの場所が増えるっていいなあと思いました。新しいキャンプ場もドキドキして新鮮な楽しみがありますが、宝台樹キャンプ場は数年に一度利用しているの、ほっとできる場所になりつつあります。今年、バス車内や夜のレクリエーションの運営にグループホーム職員も加わって取り組み、事業所間の連携が取れる機会にもなりました。同じ利用者に関わっていても、一つのを一緒に取り組む機会の少ない中で、新たな行事の意味が作り出せているのかと思います。

8月の暑い夏をどう楽しく乗り切るか、プールを出そうかな、花火をしようかな、と楽しい計画も立てながら、いやいや楽しみはお盆休みに取っておこう、と今は作谷も平沢も畑の茄子とトマトの収穫に追われる休日です。

8月からは、利用者の棟変更を少しずつ始めていきます。利用者の現状や希望を踏まえての棟移動となりますが、今後の生活がより豊かなものになるようにと考えての移動です。今まで棟の中で中心的役割を担ってきた利用者が移動することで、他の利用者の力が見えてくる、伸ばせるのではないかと。最初は利用者も職員も大変な時期があると思いますが、

利用者の持つているものに向き合う機会となるよう、職員も努力していきたいと考えています。

これから夏を過ぎて秋を迎えますと収穫祭があります。今から収穫祭のステージ発表に向けて企画・練習を進めているので、本番を楽しみにしていただければと思います。

まだまだ暑い日が続くと思います。皆様お身体には十分気を付けてお過ごしください。ほっとハウスの近況はフェイスブックでも見ることが出来ます。



ファミリーレストランにて

相談支援内容のご紹介 その1

相談支援事業所 所長 武田真浩

今年は何年以上に暑い日が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

水分補給、塩分補給、食事や栄養補給、体調管理、衣類調節、日差しを避ける、睡眠、休息…、暑さ対策にはいろいろありますが、まだまだ猛暑は続くと思われれますので、皆様それぞれの方策をとって暑さに負けずに健康で元気に過ごしていただけたらと思っております。

さて、今回相談支援からは、日々対応させていただいております相談内容についてご紹介したいと思います。一番多い相談は、障害福祉サービスの利用等についてです。具体的には、「家から近い放課後等デイサービスを利用したいと思っているが、どこにどのような施設があるのか?」「休日に家にいることが多く、時間を持って余

しているので、通えそうな所はないか? または、一緒に散歩したり、買い物に行ったり、外出する際に付き添ってくれるような支援はないか?」「家族の都合等で必要な時に短期入所を利用したいと思っているがどのようにしたらよいか?」「学校卒業後、就労に向けて訓練していきたいと思っているが、どのように進めていけばよいか?」等です。

その他には、障害や病状の理解についての相談(例:てんかん、精神疾患について)、健康や医療についての相談(例: 体重増加傾向、運動不足、地域の医療機関について)、保育や教育についての相談(例: 保育園、幼稚園、療育、児童発達支援、支援学級、特別支援学校について)、就労についての相談(例: 一般就労、障害者雇用、就労移行支援、就労継続支援A型または

B型について)、生活上の不安や困りごとの相談、家族関係や人間関係について相談、障害年金や自立支援医療等についての相談: となっております。

相談していただいてもすぐに解決に至らないことも多いのが現状で、至らなさを、申し訳なさも感じておりますが、利用者さんやご家族の思いに寄り添い一緒に悩み考えながら、少しでも解決や改善に向けていけるように努めております。

今回は「相談支援内容のご紹介 その1」として、おおまかな概要をお伝えさせていただきましたが、次回以降はより具体的な内容をお伝えしたいと思っております。「その2」では、障害福祉サービスの利用等の相談について、より詳細な内容をお伝えする予定です。